

「南山城村の宇治茶生産景観」全覧図

その土地の風土に根ざした生活や生業によって培われた文化的景観は、広域のエリアにまたがっているため、その価値の全体像を視覚的に捉えづらいものです。そこで景観研究室では文化的景観の価値を伝える表現として、調査にかかわってきた各地で「文化的景観全覧図」という鳥瞰図の作成に取り組んでいます。

今回ご紹介するのは、2015年1月、京都府の文化的景観に選ばれた「南山城村の宇治茶生産景観」の全覧図です。南山城村は京都府の南東部に位置する府内唯一の村です。木津川と名張川が流れる笠置山地にあり、なだらかな高原状の山地が多くを占めています。全覧図からは、複雑な山の地形に沿って、谷には田畑が、山すそには屋敷が、丘陵地から尾根にかけては茶畑が広がっているのが読み取れるかと思います。茶葉の生育に適した寒暖差のある高原の気候で、香りの高い良質な煎茶を栽培し、品質・量ともに宇治茶生産を支えています。茶業の歩みとともに、南山城村の人びとは、土地の条件や地形の特徴を細やかに読み取りながら、丘陵や尾根を茶畑として開拓することで、茶畑の畝が地形に沿って織りなす独特の茶畑景観が広がっていったのです。

このように全覧図の作成によって、地形や気象等の自然環境の特徴を捉えながら、風土と人の営みによって形づくられた文化的景観の価値を、視覚的にもわかりやすく伝えていくことを心がけています。

(文化遺産部 本間 智希)



